

聖学院大学大学院・総合研究所

教員活動報告書（2008 年度）

こう まん そん
高 萬 松

現職位：助教

本学への就任：2005 年 4 月 1 日

最終学歴：

1981 年 2 月 韓国、慶北大学校工科大学卒業

1999 年 2 月 東京神学大学大学院修士課程修了

2005 年 3 月 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了

取得学位：

1999 年 2 月 神学修士（東京神学大学）

2005 年 3 月 アメリカ・ヨーロッパ文化学博士（聖学院大学）

所属学会：日本基督教学会（2001 年～）、日本ピューリタニズム学会（2005 年～）、学校伝道研究会（2005 年～）

担当科目：（大学）キリスト教概論 A、キリスト教概論 B

専門分野：組織神学

研究テーマ：ピューリタニズムの神学と倫理

研究内容：1) トマス・グッドウィンにおける贖罪論と聖霊論。2) ウィリアム・ガウジの結婚観。3) 戦前、日本組合教会の朝鮮伝道。

研究業績（2008 年度〈2008/4～2009/3〉）
下表参照

区分	題 名	掲載誌・発行所・学会名等	概 要	刊行・発表年月
Bb 学術 論文	P.T. フォーサイスにおけるエヴァンジェリカリズム	『聖学院大学総合研究所紀要』No.42	「われわれが本当にカトリックであるならばエヴァンジェリカルになるであろう」と J. ヘッセリンクが言うように、フォーサイスはインディペンデンシーに基づいて「エヴァンジェリカリズム」を確立し、「偉大なる教会」を目指す教会のカトリシズムを実現しようとした。	2008.8
Bb 学術 論文	トマス・グッドウィンにおけるキリストの働き——カルヴァンとの比較	『聖学院大学総合研究所紀要』No.43	グッドウィンは以下の点でカルヴァンと親近性を持つ。すなわち、キリストは神の正義に完全な満足を与え、キリストの能動的従順と受動的従順によって信仰者は義とされ、「位格の統一」によってキリストの血は神の血となる。	2009.1
Bb 学術 論文	トマス・グッドウィンにおける聖霊論	『聖学院大学総合研究所紀要』No.44	聖霊は再生の源である。また、救いにおける聖霊の働きは信者の心の頂点にある〈spirit〉という座に新しい原理と傾向性を与える。グッドウィンの言う聖霊論は、「教会」における聖霊の働きについての関心が弱い。	2009.3

区分	題 名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概 要	刊行・ 発表年月
F 学会 発表	ジェームス・ブキャ ナンにおける義認論	第 56 回 日本基督 教学会、於関東学 院大学	スコットランド神学者、ブキャ ナンの義認論の源流には宗教改革者たち 及びトマス・グッドウィンとオウエ ンのようなピューリタンたちの神学 思想が根ざしている。そして彼はそ れをウェストミンスター信仰規準か ら具現する。	2008.9
F 発表	ピューリタニズムに おける結婚と家庭 ——ピューリタニズ ムの理念から見た日 韓の結婚・家庭の現 状	ピューリタニズム 研究会主催シンポ ジウム	「イギリスのキリスト教的結婚、イ ギリスのキリスト教的家族」の創造 者はピューリタンたちであった。現 代の日韓両国の家庭の回復のための 知識と根本的治療を受けるためには 「神との関係回復」が要するであろ う。	2009.2
F 学会 発表	戦前の日本神学者た ちの対朝鮮観——柏 木義円と渡瀬常吉と の差異	日本基督教学会関 東支部会	戦前、日本組合教会は 1911 年から 約 10 年間朝鮮伝道した。柏木義円 は純粋な福音伝道を主張した反面、 渡瀬常吉の伝道活動は朝鮮総督府に 仕える「御用宗教」に転落してしま った。渡瀬には神の義の感覚が欠如 していたと思われる。	2009.3

さ と う た か し 佐 藤 貴 史

現職位：特任研究員

本学への就任：2006 年 4 月 1 日

最終学歴：

2002 年 3 月 聖学院大学大学院政治政策学研究
科修士課程修了

2006 年 3 月 聖学院大学大学院アメリカ・ヨー
ロッパ文化学研究科博士後期課程
修了

取得学位：

2002 年 3 月 政治学修士（聖学院大学）

2006 年 3 月 アメリカ・ヨーロッパ文化学博士
（聖学院大学）

所属学会：日本基督教学会（2003 年～）、日本宗
教学会（2004 年～）、政治思想学会（2005

年～）、日本ピューリタニズム学会（2006 年
～）、京都ユダヤ思想学会（2008 年～）、実
存思想協会（2008 年～）

担当科目：大学「ユダヤ文化」（古代から現代ま
でのユダヤ人の歴史と文化）

専門分野：ヨーロッパ思想史、近代ユダヤ思想
史、政治哲学

研究テーマ：20 世紀初頭のドイツにおける思想
および政治哲学

研究内容：フランツ・ローゼンツヴァイクを中心
にヘルマン・コーエンやレオ・シュトラウス
などのユダヤ人思想家の研究

研究業績（2008 年度〈2008/4～2009/3〉）

下表参照

区分	題 名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概 要	刊行・ 発表年月
Bb 学術 論文	「瞬間と解体——H・ コーエンと F・ロー ゼンツヴァイクにお ける啓示と倫理」	『聖学院大学総合 研究所紀要』第 42 号	コーエンとローゼンツヴァイクの思 想を比較しながら、ローゼンツヴァ イクの「新しい思考」には既存の倫 理を解体するような局面が含まれて いることを明らかにした。	2008.8
Bb 学術 論文	「現実性と真理—— フランツ・ローゼン ツヴァイクの経験論 」	『宗教研究』第 358 号（日本宗教学会）	ローゼンツヴァイクの「経験する哲 学」とは啓示を「経験する哲学」で あるというテーゼを、彼の思想にお けるいくつかの鍵語に焦点を当てな がら論じた。	2008.12
D 研究 ノート	「記憶／歴史」	『聖学院大学総合 研究所 Newsletter』 Vol. 18-5	ミュンヘン・ユダヤ博物館の紹介を きっかけに、「記憶／歴史」を想起 することの意味とその困難さについ て著した。	2009.3
E 翻訳	フランツ・ローゼン ツヴァイク「新しい 思考」（共訳）	『思想』第 1013 号 （岩波書店）	Franz Rosenzweig, “Das neue Denken. Einige nachträgliche Bemerkungen zum “ <i>Stern der Erlösung</i> ,”” in <i>Zweistromland: Kleinere Schriften zu Glauben und Denken</i> (Der Mensch und sein Werk: Gesammelte Schriften III) (Haag: Martinus Nijhoff, 1984), S. 139-161 の翻訳。	2008.10
E 翻訳	レオ・シュトラウス 「スピノザの遺言」 （単訳）および「訳 者解題」	『思想』第 1013 号 （岩波書店）	Leo Strauss, “Das Testament Spinozas,” in <i>Gesammelte Schriften, Bd. 1: Die Religionskritik Spinozas und zugehörige Schriften</i> , unter Mitwirkung von Wiebke Meier, herausgegeben von Heinrich Meier, Zweite, durchgesehene und erweiterte Auflage (Stuttgart/Weimar: J. B. Metzler, 2001), S. 415-422 の翻訳と その訳者解題。	2008.10
E 翻訳	アルフ・クリストフ アーセン／クラウデ ィア・シュルゼ『ア ーレントとティリッ ヒ』（共訳）	法政大学出版局	Alf Christophersen und Claudia Schulze, “Chronologie eines Eklats. Hannah Arendt und Paul Tillich,” <i>Zeitschrift für Neuere Theologiegeschichte/Journal for the History of Modern Theology</i> , 9. Bd. 2002, S. 98-130; Edition/Source Document. Hannah Arendt-Paul Tillich. Briefwechsel, herausgegeben von Alf Christophersen und Claudia Schulze, in aaO, S. 131-156 の翻訳。	2008.12

区分	題 名	掲載誌・発行所・学会名等	概 要	刊行・発表年月
外部研究資金	「近代ユダヤ思想史と歴史主義の問題——ローゼンツヴァイクとシュトラウスの比較研究」	科学研究費補助金（若手研究（B））	ローゼンツヴァイクとシュトラウスの思想を「歴史主義」の問題を軸にして比較した。	2008 年度（～2009 年度）
外部研究資金	ドイツ・プロテスタント教会奨学金	Diakonisches Werk der evangelischen Kirche in Deutschland	ミュンヘン大学プロテスタント神学部研究滞任。	2008.10（～2009.7）

ふか い とも あき
深 井 智 朗

現職位：教授

本学への就任：1998 年 4 月 1 日

最終学歴：2006 年 6 月 アウクスブルク大学哲学・社会学部修了

取得学位：

1996 年 6 月 Dr. Phil.（アウクスブルク大学）

2005 年 11 月 博士（文学）（京都大学）

所属学会：日本哲学会（1996 年～）、日本宗教学会（1997 年～）、日本基督教学会（1998 年～）

担当科目：〔大学院〕キリスト教文化学 D（現代神学の諸問題）、ドイツ語専門書講読 B、海外研究者講義（チュービンゲン大学 C・シュベール教授との演習）
〔学部〕キリスト教と倫理的諸問題（公共神

学の諸問題とその射程について）、ドイツ語 D

専門分野：近代ドイツ思想史

研究テーマ：（長期）ヴァイマル共和国期の社会と神学、（短期）フランクフルト学派とパウ・ティリッヒ

研究内容：ヴァイマル共和国期のドイツ・ルター派リベラリズムの神学者のテキストとそれを生み出した社会史的なコンテクストの相關関係の研究。また 1930 年代の初期フランクフルト学派、とりわけアドルノ、ホルクハイマー、フロム、マルクーゼ等とティリッヒとの思想的交流についての研究

研究業績（2008 年度〈2008/4～2009/3〉）

下表参照

区分	題 名	掲載誌・発行所・学会名等	概 要	刊行・発表年月
Ba 学術論文	「神学は神学を越えて神について語ることができるのか——二〇世紀神学史の遺産と可能性」	『宗教哲学研究』・昭和堂・京都宗教学会	初期バルトのフォイエルバッハ批判を神学概念の脱構築という視点から検討した。	2009.3

区分	題 名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概 要	刊行・ 発表年月
Ba 学術 論文	「西と東の間のマル ティン・ラーデ—— ヴィルヘルム帝政期 のリベラル・ナショ ナリストとはどのよ うな立場なのか」	『日本の神学』・教 文館・日本基督教 学会	ヴィルヘルム帝政期のリベラル・ナ ショナリストであるマルティン・ラ ーデの西欧と東欧への政治的・神学 的視点の差異について分析した。	2008.9
Bb 学術 論文	「神学的アヴァンギ ャルドとしての初期 カール・バルト」	『聖学院大学総合 研究所紀要』43号	初期バルトの政治思想をヴィルヘル ム帝政期のふたつのリベラリズムと いう視点から分析した。	2008.6
Bb 学術 論文	「教会とサロンの間 のシュライアマハー」	『聖学院大学総合 研究所紀要』43号	シュライアマハーの神学をその時代 の神学と大学とのコンテクストの中 で解釈し直して「教会の神学」とし て再構築した。	2008.6
Bb 学術 論文	「神学部外の神学」	『聖学院大学総合 研究所紀要』44号	ヴィルヘルム帝政期の神学、とりわ け神学的アヴァンギェルドと呼ばれ た神学者たちの神学の性格を分析し た。	2009.3
Bb 学術 論文	「なぜ日本に組織神 学が必要なのか」	『聖学院大学総合 研究所紀要』44号	日本になぜ「組織神学」が必要なの か、という問いについて教会のコン テクストと学問論のコンテクストか ら検討した。	2009.3
Aa 著書	「見えないものを見 る」	共著『思想力』キ リスト新聞社に収 録（120頁中43頁 執筆）	宣伝会議の公開講座で行った講演 「コピーライターのための神学入門」 を書き改めたもの。	2008.12
Aa 著書	『覚えよ、汝死すべ きを——ドイツ・プ ロテスタンティズム の音楽と神学』	日本基督教団出版 局・大角欣矢氏と の共著（400頁中 231頁執筆）	16世紀以来のドイツ・プロテスタ ンティズムにおける「死」の問題を 音楽学と神学との両方の視点から分 析した。	2009.3
Aa 事典 項目 執筆	Chr. Kaiser Verlag/ Eugen Diederichs Verlag/ Friedrich Gorgarten/ Adolf Harnack	Muller-Baker theologischen Lexikon	中型の1冊本の神学事典の4つの項 目を担当した。	2008.11

区分	題 名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概 要	刊行・ 発表年月
E 翻訳	アルフ・クリストフ アーゼン／クラウデ イア・シュルゼ『ア ーレントとティリッ ヒ』（共訳）	法政大学出版局	Alf Christophersen und Claudia Schulze, "Chronologie eines Eklats. Hannah Arendt und Paul Tillich," <i>Zeitschrift für Neuere Theologieggeschichte/Journal for the History of Modern Theology</i> , 9. Bd. 2002, S. 98-130; Edition/Source Document. Hannah Arendt-Paul Tillich. Briefwechsel, herausgegeben von Alf Christophersen und Claudia Schulze, in aaO, S. 131-156 の翻訳。近年発見されたティリッヒとアーレントの亡命後の往復書簡とその解説の翻訳。ティリッヒの神学についての詳細な解説を付した。	2008.12

まつ たに よし あき
松 谷 好 明

現職位：特任教授

本学への就任：2002 年 10 月

最終学歴：

1967 年 3 月 一橋大学社会学部

1970 年 2 月 神戸改革派神学校 3 年中退

1972 年 9 月 英国 Bristol University 大学院
(Diploma Course) 1 年間

1972 年 9 月 英国 Trinity College Bristol 神学校、
特別研究生 2 年間

取得学位：

1973 年 6 月 Diploma in Theology

2005 年 3 月 Ph. D. (聖学院大学)

所属学会：日本ピューリタニズム学会

担当科目：近代社会とピューリタニズム A、近代
社会とピューリタニズム B

専門分野：歴史神学

研究テーマ：ピューリタンの歴史と神学、長老教
会史

研究内容：トマス・カートライトの聖書論、アメ
リカ長老教会史

研究業績 (2008 年度 (2008/4 ~ 2009/3))
下表参照

区分	題 名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概 要	刊行・ 発表年月
E 翻訳	エドワード・バンド 『トマス・バークレ ー』	教文館	イングランド長老教会宣教師の伝記	2009.2
F 学会 発表	トマス・カートライ トによるランス聖書 序説批判	日本ピューリタニ ズム学会	イングランド宗教改革の一側面	2008.6

区分	題 名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概 要	刊行・ 発表年月
F 発表	象徴天皇制と日本の 将来の選択	聖学院大学総合研 究所 20 周年記念 国際シンポジウム		2008.10
F 発表	ピューリタニズムに おける抵抗権思想	聖学院大学総合研 究所シンポジウム		2009.2

ブライアン バード

Brian Byrd

現職位：Instructor

本学への就任：2003 年 4 月 1 日

最終学歴：

2007 年 4 月 Seigakuin University Graduate
School Ph.D. Course (date entered;
currently in progress)

1984 年 5 月 Yale University Divinity School

1981 年 5 月 Pomona College

取得学位：

1984 年 5 月 Master of Divinity Yale
University Divinity School

1981 年 5 月 Bachelor of Arts in Economics
Pomona College

所属学会：

Phi Beta Kappa National Honor Society (1981
to present), Japan Association of Language
Teachers (2003 to present), Japanese Association
for the Study of Puritanism (2006 to present),
Kagawa Research Association (2007 to
present), Japanese Association for the Study of
Christianity (2008 to present)

担当科目：

Director of Seigakuin Elementary School English
Program (Grades 1, 2, and 6 teacher), Seigakuin
Kindergarten English Teacher, Seigakuin
Lifelong Education Center English Bible
Teacher, SLI Kids English Instructor

学生指導：

Member of Chaplain Committee, Seigakuin
Mission Band Organizer

専門分野：

Modern Japanese History, Elementary School
English Education

研究テーマ：

1. Kagawa Toyohiko and post-WWII Japanese
history
2. Elementary School English Education and
Japanese Culture

研究内容：

1. Impact of Kagawa on post-WWII Japanese
society and church
2. Use of Japanese folk literature and art forms
in teaching English to children

研究業績 (2008 年度 (2008/4 ~ 2009/3))

下表参照

区分	題 名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概 要	刊行・ 発表年月
Ba 学術 論文	Understanding Japan's defeat, finding the way forward: Orikuchi Shinobu and Kagawa Toyohiko	J a p a n e s e Association for the Study of Puritanism	Contributions of two leading Japanese thinkers, one Shinto, one Christian, to the understanding of Japan's defeat in WWII, and to the way to recreate Japanese society	January 2009
Ba 学術 論文	Teaching the <i>Momotaro</i> story to children using English	J A L T 2 0 0 8 Conference Proceedings	Background, method, and response of students and parents to the teaching of a traditional Japanese story using English	March 2009
F 学会 発表	Introducing Japan Hands-on: Karuta and Ocha	J A L T 2 0 0 8 N a t i o n a l Conference	Use of traditional Japanese games and customs to teach children English	November 2008
F 学会 発表	Basics of English Education: "Heart" and "Techniques"	Professional English Teacher Training College Web Campus	Preparing teachers of English to more effectively reach students	December 2008
F 学会 発表	Surprising ways to engage young English learners	Fifth Annual Seminar for Professional Teachers of English	Techniques and materials that can inspire English learners	November 2008
F 学会 発表	Reading and writing in the lower grades of elementary school	Eighth Annual Seminar for Teachers of English to Children, Seigakuin University	The value of and approaches to teaching English reading and writing to children	July 2008
F 学会 発表	English Education: What works?	Shizuoka JALT	Outline of a curriculum and approach to elementary school English	May 2008